

特長

■マイコン制御式コントローラー(X,M共通)

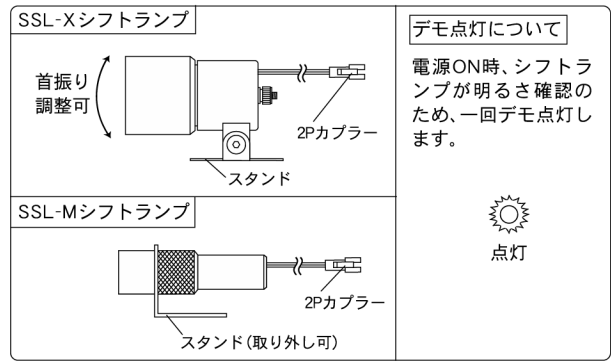
- マイコン制御にて、エンジン回転設定をワンタッチで簡単に行えます。
- シグライターへ差し込むだけの簡単接続で、オート検出回路がエンジン回転を分析判断。
- 高精度な設定や、オート検出がしにくい車種用として、回転信号配線にも対応。
- ランプ照度調整機能付。

■SSL-X用大型シフトランプ

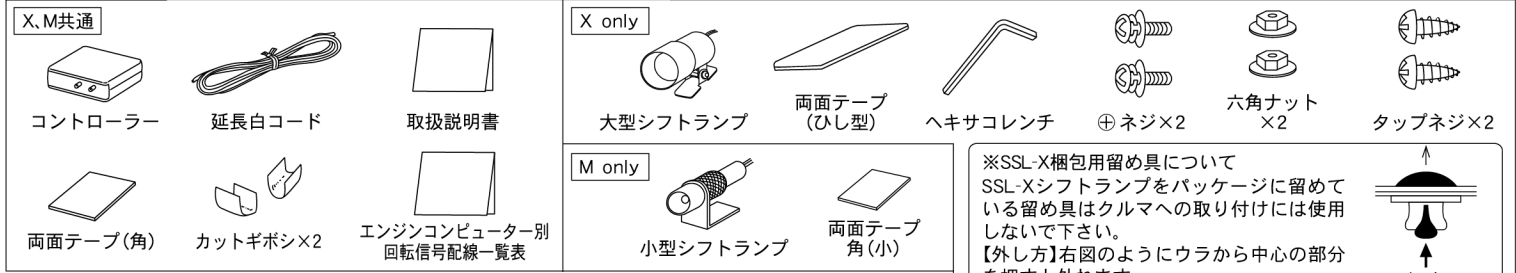
- アルミ削り出しアルマイト仕上げ。
- 超高輝度LED4ヶ使用で、どんな状況でも明るく、高い視認性を発揮。
- スタンドは様々な場所へ取り付けでき、取り付け後の首振り調整も可能。

■SSL-M用小型シフトランプ

- アルミ削り出しアルマイト仕上げ。
- 超高輝度LED使用で、玉切れの心配なし。
- スタンドに両面テープで様々な場所へ取り付けでき、更にパネル部等に穴開けしての埋め込みも可能。

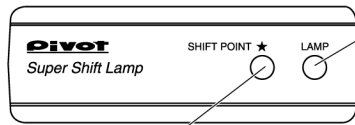


セット内容



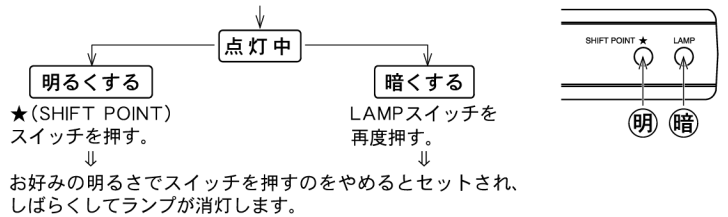
コントローラー部の名称と操作方法

<FRONT>



ランプ照度調整スイッチ

1回押すと、ランプが現在セットされている明るさで点灯。



シフトポイント設定スイッチ

シフトランプを点灯させる回転数を設定

【シフトポイント設定方法】

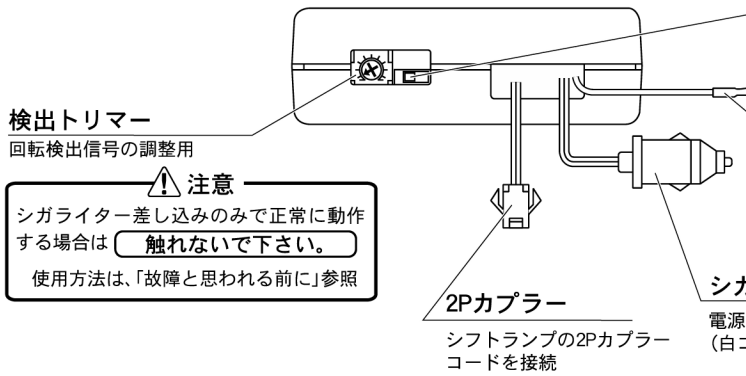
- ① スイッチを1秒以上長押しする。
↓
ランプ点滅 (設定可能状態)
- ② 設定したいエンジン回転数までアクセルにてエンジン回転を上げる。
- ③ 設定したいエンジン回転数をキープしながら、スイッチを押す。
↓
ランプ点滅が止まる。(セット完了)
- ④ 2~3回、設定した回転数に上げ下げして、シフトランプの点灯を確認する。

※設定が合っていない場合は、①~④を再度行う。

<REAR>

シグライタープラグのみの場合(回転オート検出)

通常はこの取り付けのみで動作します。

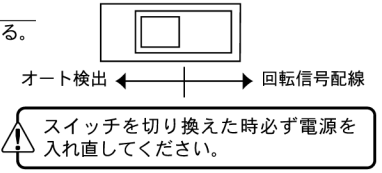


回転信号配線を行う場合

クルマ側のオルタネーター等の特性上、回転オート検出ではランプの動作が不安定、又はバラつきが多くなってしまいう一部車種やレースカー等の場合は配線、及び操作して下さい。

回転信号切換スイッチ

接続した回転信号により、切り換える。



回転信号配線した場合 (右)

回転オート検出の場合 (左)

白コード (回転信号配線用)

先端のチューブを外し、付属の延長白コードで延長して、エンジンコンピューターの回転信号(TA)へ接続します。

カットギボシの使用法

※半田付けができる場合は行って下さい。

使用方法 1 配線の途中にコードを接続する場合

- 1 接続するコードの被ふくを10mm位むく
- 2 接続したいコードの被ふくの先端を10mm位むく
- 3 被ふくをむいた箇所をしっかりとめする
- 4 確実にかしめる

使用方法 2 切断線どうしを接続する場合

- 1 それぞれのコードの先端を10mm位むく
- 2 むいたコードどうしをしっかりとめする
- 3 確実にかしめる

※カットギボシのかしめには圧着工具をご使用下さい。工具がない場合はラジオペンチ等で折たたむようにしっかりとめて下さい。(下図) ※不確実なかしめは断線の原因となりますので、かしめた状態を今一度お確かめの上、
確実にビニールテープ等で絶縁をして下さい。

シガライタープラグのみの場合(回転オート検出)

通常はこの取り付けで動作しますが、下記の場合は高精度で安定性の良い回転信号配線を行って下さい。

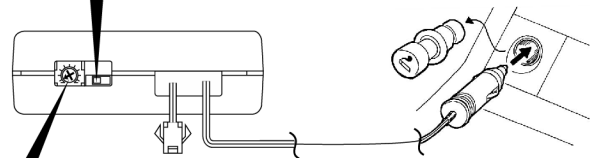
原因＝クルマ側のオート検出用波形が不安定な為で、製品故障ではありません。

1. エアコン、電動ファン、ライト等の作動時と作動しない時のズレが大きい。
2. 検出トリマーを調整しても不安定な作動となる。

1. コントローラーのシガライタープラグを抜き取り、ソケット内のゴミや汚れを取ってキレイにします。
2. コントローラーのシガライタープラグをシガライターソケットへ確実に差し込みます。

→ 接続完了

回転信号切換スイッチは必ず左にします。

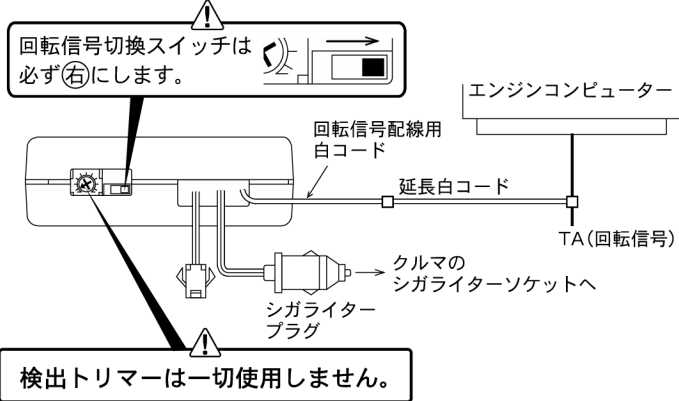


検出トリマーについて

このトリマーは正常に作動する場合は触れないで下さい。

回転信号配線を行う場合

1. 回転信号配線用白コードを先端のチューブを外して、付属の延長白コードで延長します。
2. 延長白コードの先端をエンジンコンピューターの回転信号(TA)へ接続します。(TAの場所は、「エンジンコンピューター別回転信号配線一覧表」をご覧ください。)
3. クルマのシガライターソケット内をキレイにして、コントローラーのシガライタープラグを確実に差し込みます。



検出トリマーは一切使用しません。

シガライタープラグを使用しない場合

シガライタープラグを使用せず、直接配線接続する場合は次のようにします。

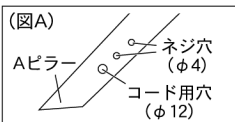
- ① シガライタープラグのコードを切断する。
- ② 白線側をACC ⊕ 12Vへ接続する。
- ③ 線なし側をボディアースへ接続する。



SSL-X用シフトランプ

1 Aピラーへの取り付け

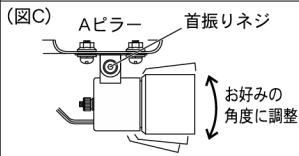
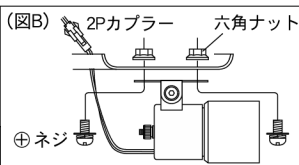
- ① 取付位置を決める。
- ② Aピラーを外す。
- ③ ネジ穴2ヶ所、コード穴1ヶ所を開ける。(図A)



- ④ ネジ穴にスタンドを、⊕ネジと六角ナットで止める。
- ⑤ 2Pカブラーコードをコード穴に通す。
- ⑥ コントローラーの2Pカブラーコードと接続する。(図B)
- ⑦ Aピラーを元に戻す。
- ⑧ 首振りネジをゆるめ、シフトランプの角度を決める。
- ⑨ 首振りネジを締め、シフトランプを固定する。(図C)

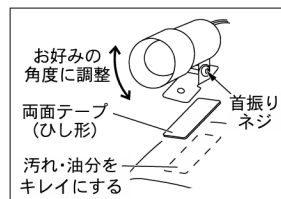
注意

Aピラーへの取り付けは、必ず⊕ネジとナット、又はタップネジを使用する。(=両面テープは使用しない)



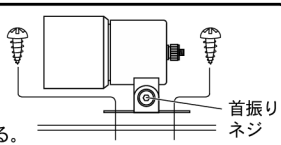
2 コラムカバー上、メーターフード上への取り付け

- ① スタンドのウラへシフトランプ用両面テープを貼る。
- ② クルマの取り付ける場所の汚れや油分をキレイにする。
- ③ シフトランプを貼り付ける。
- ④ 首振りネジをゆるめ、シフトランプの角度を決める。
- ⑤ 首振りネジを締め、シフトランプを固定する。



《タップネジを使用する取付》

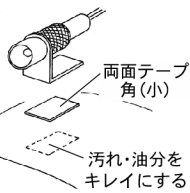
- ① 首振りネジをゆるめる。
- ② タップネジを確実に締め込む。
- ③ シフトランプの角度を決める。
- ④ 首振りネジを締め、シフトランプを固定する。



SSL-M用シフトランプ

1 スタンドでの取り付け

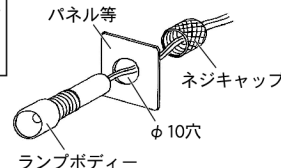
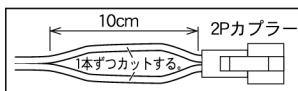
- ① ランプのウラへシフトランプ用両面テープを貼る。
- ② クルマの取り付ける場所の汚れや油分をキレイにする。
- ③ シフトランプを貼り付ける。



2 パネル等へ埋め込み

注意 2Pカブラーはコントローラーの2Pカブラーから必ず抜くこと。

- ① 2Pカブラーコードの根元10cmくらいの所まで平行コードを裂いて、1本ずつにする。
- ② 1本ずつにしたところでそれぞれカットする。
- ③ ネジキャップをゆるめて外し、スタンドを抜く。
- ④ 取り付けたいパネル等にφ10の穴を開ける。
- ⑤ ランプボディを通し、ウラからネジキャップで固定する。
- ⑥ カットした2Pカブラーを白線側、線なし側をそれぞれ確実に接続し、絶縁する。



故障と思われる前に

※修理依頼なされる前に、次の項目をご確認下さい。

症状	原因	対策
シフトランプが点灯しない。	・コントローラー<REAR>の検出トリマーが右に回してある。	・検出トリマーを左いっぱいにする。
	・シガライター差し込みのみの接続で、回転信号切換スイッチが右(検出トリマーの反対側)になっている。	・左(検出トリマー側)へ確実に切り換え後、電源を入れ直す。
	・延長白コードの接続、接触不良。	・各部の接続場所・接触状態を確認する。
エアコン、電動ファン、ライト等の作動時と作動しないときのズレが大きい。	・クルマ側のオート検出用波形が不安定なため。	
エアコン等を作動させると低回転でランプが作動する。	・クルマ側のオート検出用波形が不安定なため。	検出トリマーを左いっぱいから少しずつ右へ回し、不安定作動しない位置へ調整。
・不安定な作動となる。 ・低回転が不安定。	・クルマ側のオート検出用波形が不安定なため。	・検出トリマーを調整。 ・3000rpm以上で使用する。

注意

検出トリマーを右に回し過ぎると、それまでに設定した回転数で点灯・点滅しなくなる場合があります。
→再度シフトポイント設定を行って下さい。

シガライタープラグのみの場合で上記調整等を行っても改善されない場合は

回転信号配線を行って下さい。